



一年間世界一周一人旅

私は3つのものを持っていた。

- 1、世界一周に行きたいという思い
- 2、世界一周に行くための資源(時間・お金)
- 3、思いを実行に移す勢い

結果、世界一周に行く事になった。

ただ、それだけ。

何をしてやろうという気もない。

感じるだけ、世界を。

それでいい。

世界はどんな表情を見せるのだろう。

そして私はどんな表情をするのだろう。

考えるのではなく、感じる世界。

未来のためだけでなく、今のために生きる今。

それが私の世界一周スタイル。





1タイ

一年間続く世界一周旅行の出発点。笑顔の人々、美味しいチープめし、居心地の良い安宿、綺麗な海……でも一言で表すならトンガリ。



2ラオス

タイからメコン川を亘ると辿り着く。発展もしておらず、観光資源も乏しいこの国は東南アジアの中でも際立ってゆっくりと時が流れている。



3ベトナム

ドンと言えば、ガバチョかベトナムか…。0が多く書かれた紙幣は大金持ちになった気分にさせてくれる。とにかく居心地の良い国。





4カンボジア

大学時代に一度訪れ、再訪したくなったアンコール遺跡群。
甦る感動。改めて感じる飯のまずさ。



5インド

語るのではなく、浸る国…それがインド。
 「貴方は手にウンコがついたら、紙で拭きますか、水で洗いますか。」
 この一文がインドへの扉を大きく開いてくれた。



6ヨルダン

インドから飛んできて、驚いた。匂いがないことに。国名はあまり知られていないが、世界一かもしれないペトラ遺跡がある国。何が世界一かって？…ぼったくりな入場料とそれを凌駕する壮大さが。





7イスラエル

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地である首都エルサレム。
世界を旅する人の間で、美人が多い国として有名。



8エジプト

ダイバー憧れの海レッドシー。世界一有名な四角錐ピラミッド。
エジプトは見どころと、人のウザさで溢れている。



コラム1～移動手段～

「船？飛行機？」…世界一周に行ったというと最も多く訊かれるのが移動手段について。説明がめんどくさいとあらゆる交通手段を駆使した個人手配の旅行だと答えています。実際のところそうなのですが、移動手段の中心は世界一周航空券によるフライトというのが丁寧な回答。

個人手配で世界一周する旅行者(バックパッカー)はLCC派と世界一周航空券派に2分されますが、私が選択したのは後者。理由は両者を比較検討せずに、勢いで後者に飛びついたという安易なものですが、結果として正解だったと思っています。

で、世界一周航空券で何ぞやということですが、ワンワールドやらスターアライアンスやらの航空会社グループが発行している世界を回る複数フライトに適した回数券のこと。この回数券というのがポイントで、無制限に飛行機に乗れるわけではなく、しかも、何マイル以内だの、一大陸何回までしか使えないだの、逆走できないだの何やかんやルールがあります。

それ故、めんどくさいからとりあえず飛んでしまえ！と飛び立つ人にはLCCでの旅が向いています。期限も縛りも一切なし。物価の安い国での長期滞在＝沈没も自由。

世界一周航空券を使うとこうはいきません。ルールが多いことに加え、出発前にルート＝どこからどこに飛ぶかをすべて決めておかねばならないからです。この縛りが期限のある旅行者にはメリットとも言え、時期による価格変動を気にせず、決めたルートで進むことができます。フライトの日にと時間は無料で自由に変更が可能であり、私は当初の計画より、かなり前倒しにフライトを組み替えました。



私が今回利用したのはワンワールドの5大陸というもの。全16回フライトができて、約60万円でした。航空券の代金はルートに関わらず一定ですが、フライト距離に比例した燃油サーチャージで価格が変動します。大陸数は3大陸から6大陸まであり、大陸数が増えるほど価格が上がる仕組み。1回のフライト当たり、4万弱であり、高くはないものの、アメリカの国内線などは2万円弱で購入できますので、お得とも言い切れません。私が選んだルートを単純合計すれば、ばら買いよりも安価で済んだことも確かですが（チリ-オーストラリア間だけで20万を超える）、世界一周航空券を選択したからこそそのルートであり、LCCベースであつたら違うルートで組んでいたことでしょう。

世界一周航空券を移動の主軸とはしたものの、細かい移動には自転車、バス、電車、トゥクトゥク、LCC、船などを相当数使いましたし、個人手配と言いながらも、現地ツアーにも結構参加しました。その方が経済的な場合や、そうするより他に訪れる手段がない場所もあったからです。

たかが移動手段ですが、これが旅の個性となり、肝となる部分でもあります。インドの長距離列車の中でチャイをすすりながら過ごした時間は、観光地で過ごしたそれよりも記憶に強く焼き付いています。



成田(日本)→バンコク(タイ)→ムンバイ(インド)→アンマン(ヨルダン)
→カイロ(エジプト)→ロンドン(イギリス)→ロサンゼルス(アメリカ)
→ニューヨーク(アメリカ)→マイアミ(アメリカ)→カラカス(ベネズエラ)
→リマ(ペルー)→サンティアゴ(チリ)→イースター島(チリ)
→サンティアゴ(チリ)→シドニー(オーストラリア)→エアーズロック(オーストラリア)
→シドニー(オーストラリア)→成田(東京)
＊路線廃止に伴い1区間追加。計17フライト



9イギリス

移動拠点という認識が覆されたのがここイギリス。
ナショナルエクスプレスで一面に広がる牧草地を眺めながらのんびり旅。
イングリッシュブレックファーストを食す幸せ。





10ベルギー

「天井のない美術館」…誇張の多い地球の歩き方のキャッチだが、それを見事に上回ったのが世界遺産の街ブルージュ。首都ブリュッセルにある小便小僧は世界三大かっがりに数えられている。小僧だけでなく小便少女もいるとかいないとか…。





11オランダ
昼はチューリップを夜は飾り窓を…。





12ドイツ

地元のスーパーで何事もなかったかのように山積みになって売られているクイーンズ伊勢丹レベルのパン。ウルストにかぶりつきながら、美しい街並み散策。



13スイス

ハイジの舞台であり、青い空の方のロミオの出生地。自然も町もすべてが綺麗。クララが立つのも納得。





14チェコ

バファリンの半分は優しさでできていて、チェコの魅力の半分は豚肉でできている。





15オーストリア
かつてのハプスブルク家の帝国。
遊び心に満ちた街並み。



16スロヴァキア

ヨーロッパも8か国目になると結構飽きてくる。インドのように無駄に絡んでくる人もなし。そんな旅人の心をくすぐるインド臭さがあるのがこのスロヴァキア…な訳ないか…。





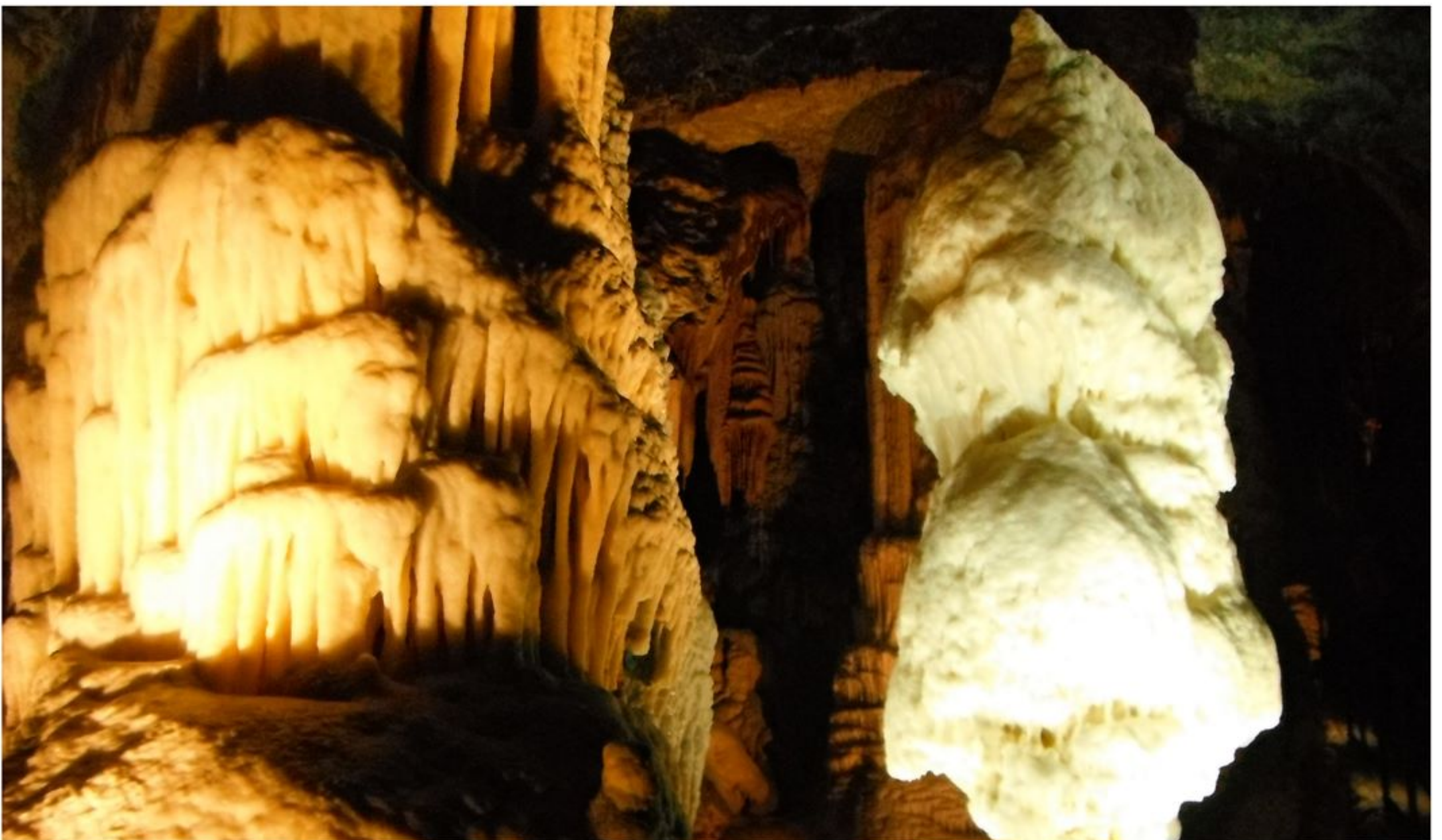
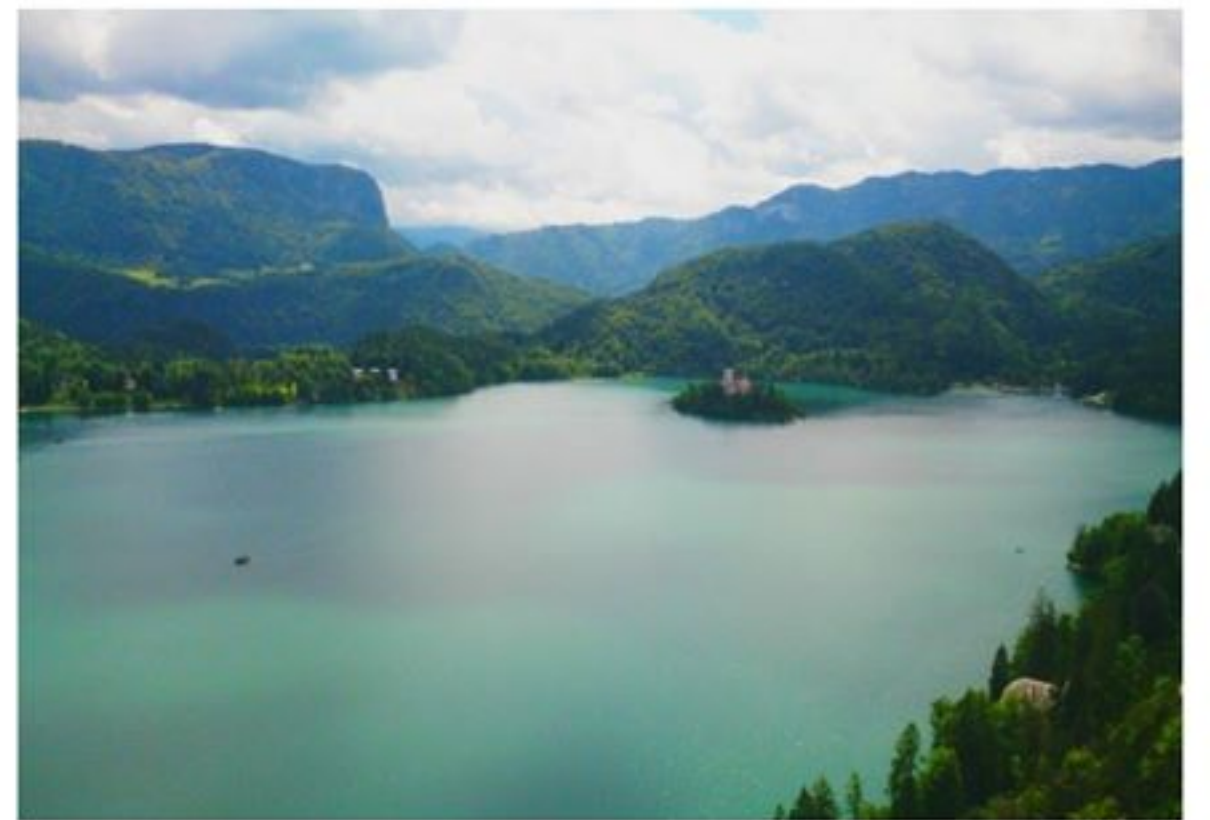
17ハンガリー

もう街並み見るのも飽きてきたし、美味しいものでも食べてやる。と思ったけど、見どころ満載な首都のブダペスト。英語が通じなくてイラッとするけど。



18スロヴェニア

日本ではあまり有名でないけど、ヨーロッパの人々が訪れる人気の観光地。ポストイナ鍾乳洞をトロッコで駆け抜けるアトラクションは最高。ネズミーランドもびっくり。



コラム2～予算～

「1年間1日1万円で365万円で見積もって、実際は340万円くらい」…こう言うと反応は二手に分かれます。一方は「そんなにかったの、よく貯めたね」というもの、もう一方は「そんなもんで行けるんだ」というもの。世界一周旅行者のブログを参考に立てた金額ですが、その際に私も後者同様に感じました。

＜365万円(1日1万円)の内訳(ざっくりと)＞

- ・移動55%(5500円/日)
- ・宿20%(2000円/日)
- ・食事10%(1000円/日)
- ・その他(入場料等)15%(1500円/日)

＊ツアーは移動＋入場料＋ガイド料＋(食事)なので、大体的な感じでそれぞれに割り振り。

日本で一人暮らしをしても家賃やら何やらで月に15万円くらいはかかると考えると、その2倍のお金で一年間世界一周一人旅ができるのです。もちろん、他の人が私と同じ期間世界一周した場合、これより多くのお金を使う人、これより少ないお金でやりくりできる人がいるはず。また周る国によっても大きく予算が変わってきますので、あくまでかなりアバウトな参考金額でしかありません。

同じ予算でも上記の金額の内訳を変えることで異なる旅のスタイルになるというのも面白い点。私の場合は「とにかく観光スポットを多く回りたい」という考えでしたので、移動費用の比重が予算の半分を上回っています(長距離バスが嫌いなので、飛行機を多く使ったのも移動費用が高い理由)。しかし「のんびりくつろぎたい」という目的の人は都市数を減らし、移動予算を1日4000円、食事を2500円と割り振れば、毎日外食が可能です。

■食費1日1000円の使い方

アジア:3食外食

ヨーロッパ:スーパーでパンとチーズとフルーツ(たまにリッチに外食)

アメリカ:スーパー飯またはファーストフード(たまにレストラン)

物価の安い南米地域:2食外食

物価の高い南米地域(イースター島、パタゴニア):自炊

オセアニア:自炊。

■宿代1日2000円の使い方

アジアはシングル。その他はドミトリー(たまにホテル)。



インドの宿
(ツインで600円程度)



スイスの宿
(ドミトリーで3500円程度)



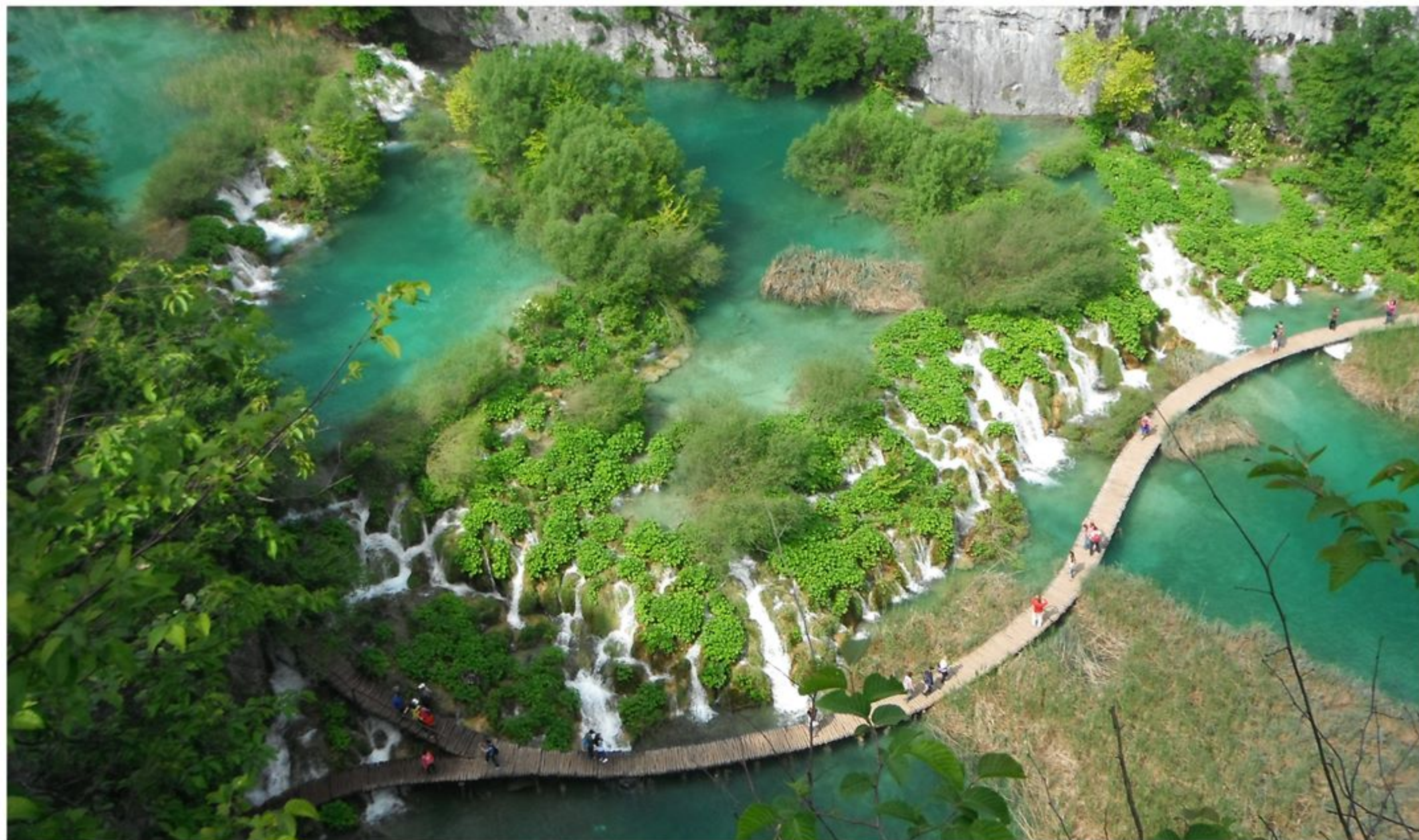
エジプトのレストラン朝食
(100円程度)



オーストラリアの自炊飯
(食材費100円程度)

19クロアチア

プリトヴィツェ湖畔国立公園はまるで妖精の国に迷い込んだかのよう。
「アドリア海の真珠」と称されるドゥブロヴニクも必見。
「南海の黒豹」はレイセフォーだったね。ここではどうしても良い話だけど。





20モンテネグロ
 世界一しょぼい首都と囁かれるポドゴリツァ。
 それとは対照的に箱庭のようで可愛いコトル。



21セルビア
私はそれをバーガーと呼んでいた。





22ブルガリア

ヨーグルトは日本中にこの国の名前を知らしめた。
しかし、この国で食したその味は今一つであった。



23ギリシア

グreekヨーグルトの中に垣間見るアイデア。
素晴らしき景観を有する哲学発祥の地。





24トルコ

イスタンブール、カッパドキア、パムッカレのゴールデンライアングルに青の洞窟を添えて。





25イタリア

グラッツェ、グラッツェ。ポーノ、ポーノ言っていれば、陽気なイタリア人が温かく迎え入れてくれる…ってほどでもなかったけどね。街並み見下ろしたくなるね、一番高い場所で。



26バチカン

世界一小さな国。サン・ピエトロ大聖堂に立つだけで感じる歴史の重み。



27モナコ

世界で2番目に小さな国。カジノとF1で有名…らしいですよ。坂が多いのでバックパッカー泣かせ。ドレスコードにも要注意。





28フランス

モンサンミッシェルは日本人に大人気。何たってアタック25のラストクイズの景品だからね。足を延ばして凱旋門賞の舞台、ロンシャン競馬場へ。





29スペイン
日差しを浴びながらガスパチョをすする
幸せ。ガウディすごいね。



30ポルトガル

ユーラシア大陸最西端のロカ岬。そこになにがあるわけでもないが、今回の旅行でこの国がヨーロッパ最後。胸の内にこみ上げる達成感。



コラム3～お勧めの国～

私がいつも回答に窮するのが「どの国が一番良かったか」という問い。なぜなら何をもって良かったとするかが難しいから。そして、一国の中でも様々な場所を訪れ、色々な経験をしているから。これが一番良かった遺跡という問いならペトラと答えるし、綺麗な街並みならブルージュ、長期滞在にお勧めの国とすればタイかベトナムという回答になります。

ただ、あえて冒頭の問いに回答するならばインドです。「どこが？」と追撃されると非常に困るのですが、旅人としての経験値を最も高めてくれた国であり、それ故、他を寄せ付けけないほど印象に残っています。

インドに入国した私がまず挑んだのが手桶を使ってお尻を洗い流す術をマスターすること。インドの一般的なトイレにはトイレットペーパーがないだけでなく、それを捨てるための屑籠もありません。つまり、手持ちのペーパーを使ったとしても、それをビニールか何かに入れて持ち運ばなければならないのです。そのため、インド滞在の40日間を乗り切るために手桶スキルは必須でした。



<手桶>

正式名称不明。用を足した後に、お尻の洗浄をするための必需品。スペイン語圏で形式的に便器の横につけられているビデとは大違い。トイレだけでなく、料理を作る際にもボールのような役割を担う優れもの。大体1リットルくらいの容量があり、これに1杯の水でお尻と手を洗い、さらに用そのものを流すことが出来れば、貴方はもう立派なインド人。なお、この手桶の代わりにペットボトルを半分に切ったものが備え付けられていることも公衆トイレにおいてはしばしば。

さて、気になる手桶の使い方は以下の通り(我流)。

- 1、トイレ個室の壁についている蛇口から手桶に水を移します。
- 2、中の水をお尻の背面から皮膚に沿わせて汚部に届くようにかけます。
(ここが最もスキルを要するポイントです。)
- 3、たれ落ちる水を左手にまとわせて汚部を洗います。
(左手が十分な水を纏っていないと、汚物が付くので要注意。
食事で左手使わないのも納得。)
- 4、余った水で左手を洗います。
- 5、濡れたお尻は放置します。
(そんな細かいこと気にしていたらインド旅行はできません。)

いかがでしょうか。トイレを例に上げましたが、インドの旅がいかに貴重な体験に満ち溢れているかをご理解いただけたのではないのでしょうか。

その他にも5時間遅れるスーパーファーストエクスプレス(鉄道)、窓の閉まらないデラックスバス、お布施を要求してくるただのオカマ、野良牛が闊歩する首都など突っ込みどころは枚挙に暇がありません。

この話を聞いて、無理だと思う方にはスイス、カナダ、ニュージーランドなど綺麗でストレスのない国をお勧めします。逆にテンションが上がった方は、是非インド、エジプト、モロッコの世界三大ウザい国を制覇してください。

ただ、新婚旅行でインドに来ていたカップルには言ってやりたかったです。今じゃないでしょ、と。



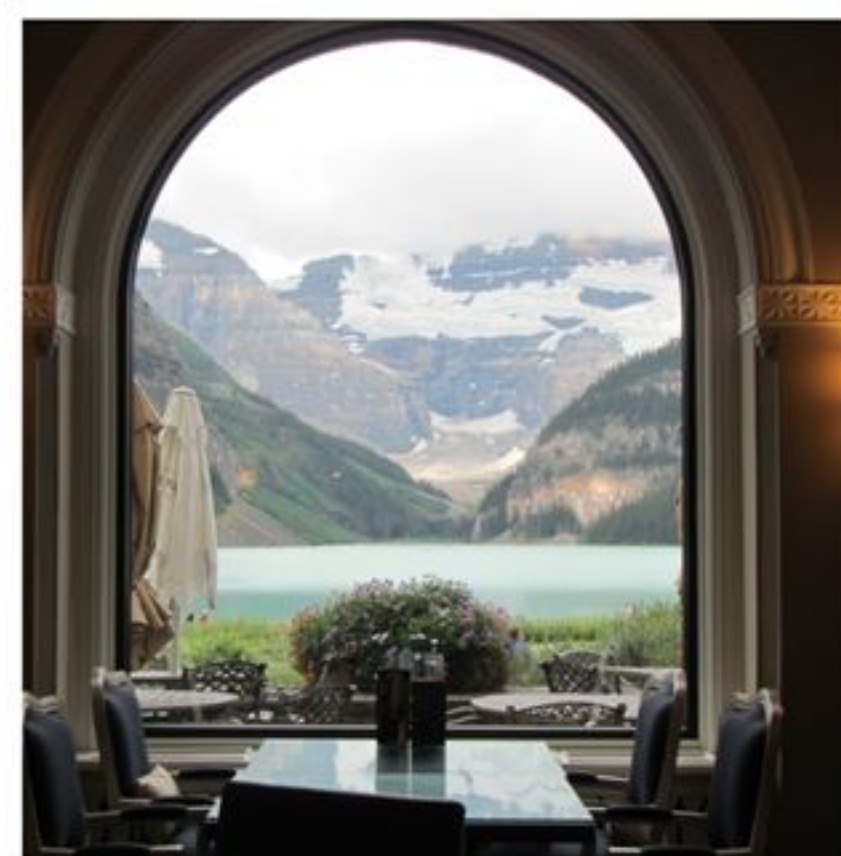
「僕を写して！」と男の子。
あら、何とまあ可愛いこと。…と思いきやシャッターを切った瞬間に10ルピーを要求してくるからインドの子供は実にたくましい。ペットボトルの水を売りに来る少年にも要注意。それを買ったら友達になれるのは少年ではなく、トイレであるから。でも、そんなインドのすべてを受け入れた時、インドは貴方を迎え入れてくれるに違いない。



31モロッコ

インド、エジプトと並ぶ世界三大ウザい国の一つ。摂氏40度、ウザさを超える暑さ。ラクダにまたがりゴールデンサンドの大海原に繰り出そう。





32カナダ
際立つ湖の美しさ。カナディアンロッキーでのんびりと。





33アメリカ

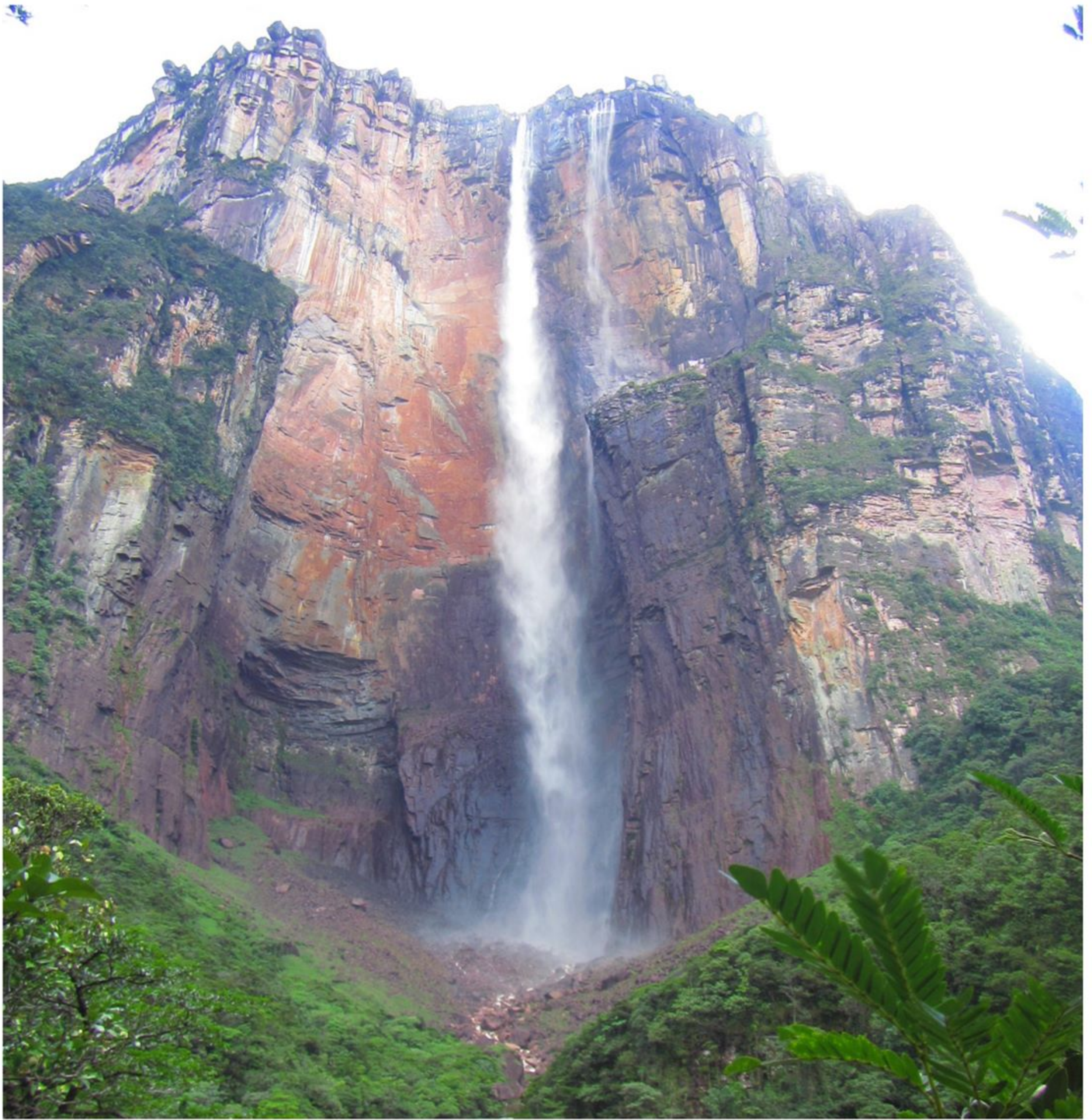
毎日ハンバーガーでもいいや。これだけの自然にめぐり会えるなら。





34バハマ
バックパッカーの一人旅らしからぬ豪華客船4泊。





35ベネズエラ

茶色の澄んだ水が流れる川をカヌーで上り、
世界一の落差を持つエンジェルフォールへ。



36ペルー

レストランのメニューが読めず毎日のように食した鶏肉。インド以上にお腹を壊したのも今になっては良き思い出…でもないか。





37ボリビア

国名よりもウユニ塩湖の方が有名かもしれない。その場で知り合った日本人と共に。





38チリ

イースター島にはモアイがいて、マグダレナ島にはペンギンがいて、
安宿には英語の話せないお姉さんがいて、予約していた私を追い出した。



39アルゼンチン
闇両替して肉を食らいにレストランへ。





40ブラジル
イグアスの滝目当てに1dayトリップ。
何が起きているか分からないほどの水しぶき。





41パラグアイ
国境の町シウダーデルエステに2時間だけ滞在。

42ウルグアイ

スペインとポルトガルの建築スタイルが混在する町コロニアルデルサクラメント。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスよりフェリートリップ。





43オーストラリア

6つの州と2つの特別地域を約1か月半かけて巡った。
赤い大地に現れる巨大な一枚岩を眼前にした時、先住民でなくとも畏敬の念を抱いてしまう。コンビニジュースの値には殺意を抱くが…。

44フィジー

フィジーブルー。その名が相応しい透き通った海。裏なく笑顔で迎えてくれる人々。





45ニュージーランド

オークランドからクーンズタウンまで縦断の旅。ロードオブザリングの舞台にもなったトンガリロ国立公園でトレッキング。

46日本

30歳という節目の年に勢いで飛び立った世界一周旅行。毎日のように異なる場所で異なる経験をしたからだろうか、一年とは思えないほど長い時間が経過したかのように感じる。

しかしながら、その一方でふと日本の地に足を踏み入れた瞬間に、あたかもずっとここにいたかのようにすべての現実を当たり前のこととして受け入れることができる。これが母国というものなのだろうか。

旅の前後で何か変わったか。おそらくほとんど変化はない。30年間培ってきた私という存在をバックパックと共に背負っての歩みだったからであろう。20代前半での旅であつたら、少し違っていたかもしれないが。

ただ、心から思う。世界を巡って正解であつたと。その土地土地で過ごした時間が鮮明に私の中に記憶されている。これと同じ時間を日本で過ごしたならば、それらは忘却の彼方へ押しやられていたに違いない。

「ありがとう」

最大限の感謝の意を表したい。今という瞬間に。そして今につながるすべての時、人、物事に。





2013年1月22日～2014年1月22日
一年間世界一周一人旅

完

